

# 第101期 中間報告書

2008年11月1日～2009年4月30日

 **OHARA**®

株式会社 オハラ

## 株主の皆様へ



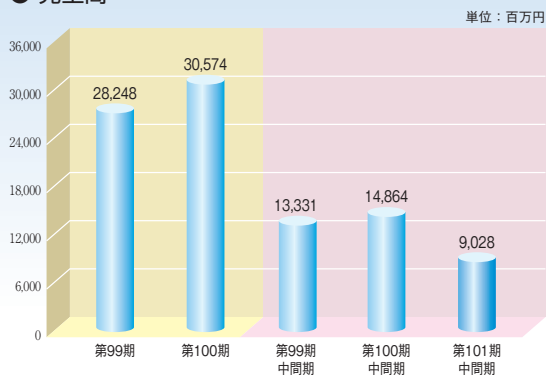
最高品質の先進素材を提供し、  
世の中の技術革新に貢献して  
まいります。

代表取締役社長

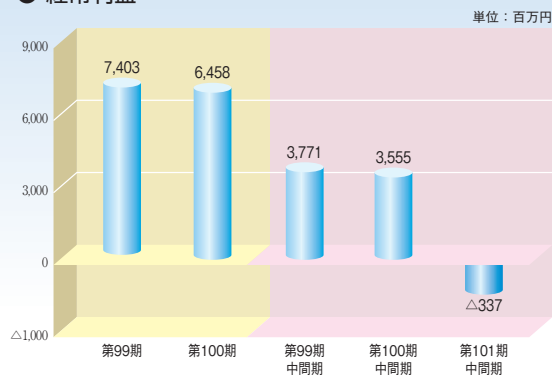
齋藤 弘和

## 連結財務ハイライト

### ● 売上高



### ● 経常利益



## 当上半期の業績について 教えてください。

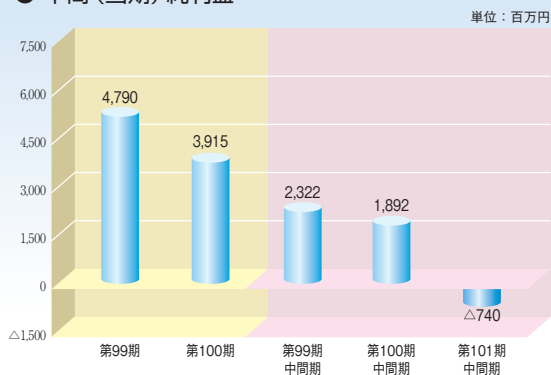
上半期の業績は、昨年秋以降、急速に進んだ世界同時不況による関連業界の大幅な需要減少により、連結売上高90億2,800万円、対前年比39.3%の減収となりました。経常段階で3億3,700万円の損失となり、上場以来初めて損失計上となっております。ここ数年、デジタル一眼レフやハードディスクドライブなどの市場拡大にあわせて、当社も生産能力の拡大を進めてまいりました。こうした中で前期は過去最高の売上高を記録することができましたが、昨年11月以降、市場の急激な在庫調整により、設備稼働率が大幅に低下、償却費等の固定費負担が拡大し、損益面で大変厳しい結果となりました。緊急不況対策による固定費削減、変動費率の低減、投資抑制、生産調整による在庫圧縮、雇用調整休業実施など行いましたが、未だ経験したことのないスピードと規模の需要減少をカバーすることはできませんでした。

## 今後の事業戦略について 教えてください。

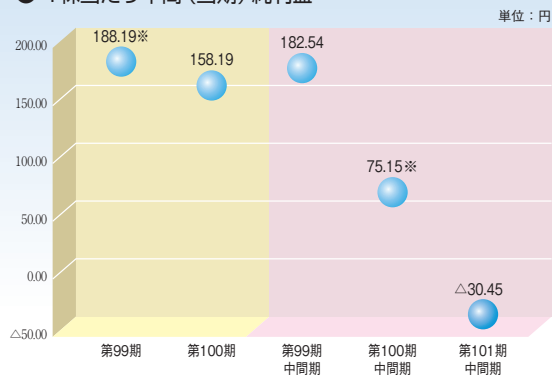
今後、需要が回復しても従来通りの市場が戻ってくるとは考えていません。デジタルカメラの回復は新興国向けの低・中価格帯モデルが中心となるでしょう。また、ハードディスク用ガラス基板材の需要は当面供給過剰の状態が続きます。いずれも価格低下の圧力が強まることは必至です。また、その一方で、コモディティ化する製品市場において顧客企業各社は高機能、高付加価値による差別化と値ごろ感のある新製品投入を図り、需要の掘り起こしを進めていく活動を加速させるでしょう。

今後はこうした市場ニーズの変化に対応する事業戦略を展開していくことが必要となります。足元では、グループを挙げて原価低減活動を推進し、回復する需要を確実に捉えていきます。中長期的には、光事業において中国メーカーのOEM生産活用による光学ガラス材料の価格低減を武器に、低・中価格帯デジカメ用

● 中間(当期)純利益



● 1株当たり中間(当期)純利益



(注) ※は2007年5月1日付で実施した株式分割後の株式数により算出しております。

レンズのシェア拡大を目指します。エレクトロニクス事業においては、ハードディスク用ガラス基板材の競争力強化に向けて後工程の顧客との連携を強化し、工程短縮などのコストダウン施策を推進してまいります。その一方で、両事業ともに、顧客ニーズを具現化する材料特性をもった新製品を投入していくなど、高付加価値品を提供することで収益性の向上を図ってまいります。

## 新中期経営計画の狙いについて お聞かせください。

100期で最終年度となった前中期経営計画は売上高こそ過去最高を記録しましたが、拡大する市場への対応に向け積極投資を進める中で、各段階利益は年々低下し収益性悪化の傾向が表れておりました。これは光事業、エレクトロニクス事業共に従来パターンでの拡大ではオハラ成長には限界があるということを表し

ていました。こうした状況下で、オハラは質的に変化していかねばならないと判断し、中期経営計画の先にある長期的な展望、オハラのあるべき姿について、再度認識を共有するために、2020年あたりを見据えた「オハラ長期ビジョン」を策定することとし、昨年より取り組んでまいりました。

この中で、オハラは、「人材育成を強化し、コアコンピタンスである素材開発力を高め、革新的な先進素材を提供し顧客とともに技術革新を実現していこう」という基本方針のもと、高付加価値製品へのシフト、新規事業として第3の柱、環境・エネルギー事業への進出という目標を掲げました。

今回の大幅な景気後退で、我々は変化のスピードを一層加速しなければならなくなると認識しております。既存の収益パターンを変革し、新たな顧客価値創造に向けた事業構造に転換していく活動を強化していかねばなりません。その意味で、新中期経営計画は、長期ビジョン実現に向けた、生産体制の見直しと高付

## 『夢実現企業』となる！

光  
(光学材料事業)

エレクトロニクス  
(電子材料事業)

環境・エネルギー  
(環境・エネルギー材料事業)

価値観1	高い志と変革実行力	高い社会貢献意識と変革の実行力を持った人材育成
価値観2	先進素材の提供	われわれの得意な素材分野の開発力・技術力を極める
価値観3	最高品質の追求	品質にこだわる、顧客の信頼を裏切らないオハラの遺伝子
価値観4	世界の顧客へ	顧客の求める価値観を実現し、世界中にオハラの素材を！

加価値品の開発による収益性の回復を目指した事業基盤の再構築の期間という位置づけとなります。

## オハラをどのような会社になりたいと思われていますか？

オハラは研究開発型の素材メーカーとして、材料特性に優れた先進素材を常に社会に提案し、世の中の技術革新を引っ張る会社として社会貢献を果たしていきたいと考えています。オハラの新素材、新技術があったからこの技術革新が生まれたといわれるものを世に出していきたい。そのためには、高い社会貢献意識と変革実行力をもった人材の育成がもっとも大事だと考えています。企業は人なりといいます。ものづくり企業の目標達成には「人づくり」が必須です。まず最初に企業目標の達成に向けた同じ思いをもった社員像を明示し、オハラに集う人には、こんな高い社会貢献意識（志）と変革実行力をもってほしい、というメッセージを長期ビジョンの冒頭に表しました。

こうした人材が生み出す新素材の提案を最終製品に繋げ、最終顧客の喜びに繋げるサプライチェーン創造の活動がないと素材メーカーとしては生き残れません。



そのため、いつも顧客の方を向いて、顧客の声に耳を澄まし、顧客の夢と一緒に実現する精神が必要です。お客様の信頼が我々の企業活動のベースであり、後工程のお客様（加工メーカー・部品メーカー・完成品メーカー）の求める価値を実現するための対話力、提案力を研ぎ澄まし、常にお客様から信頼される企業としてありたいと考えています。

先日、政府より日本の温室効果ガス排出量を2020年に2005年比15%削減する中期目標が発表されました。当社グループとしても、エネルギー原単位の削減はもとより、顧客工程で発生する廃棄物（スラッジ）の削減や省エネに貢献できる製品（低Tg光学ガラス）の提供とともに、太陽光集光レンズ、全固体リチウムイオンバッテリーなど、積極的に地球環境の改善に貢献できる製品の提供をしていくことで、こうした動きに貢献していきたいと考えております。

## 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

株主の皆様への利益還元につきましては、業績の状況や経営環境を踏まえ、企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保に努めつつ、長期的視点にたって安定配当をしていくことを基本方針としております。

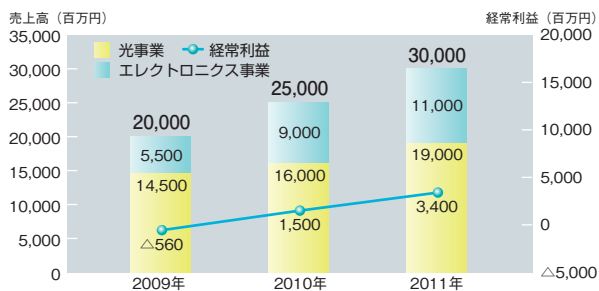
今後、事業構造の変革と成長に向けた研究開発投資などの資金需要が予想されますが、財務状況などを踏まえつつ適宜利益還元を進め、株主の皆様のご期待にお応えしてまいりたいと存じますので、何卒ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 新中期経営計画発表

対象期間：2009年10月期（当期）～2011年10月期

6月11日（木）の第2四半期決算発表と同時に、当期より3ヶ年の新中期経営計画を発表しました。この新中期経営計画では、既存事業である光事業とエレクトロニクス事業の強化に加え、第3の事業として、環境・エネルギー分野への参入挑戦を掲げています。オハラは、革新的な先進素材を提供していくことで、お客様とともに技術革新という夢を実現してまいります。

### ● 連結売上高・連結経常利益目標値

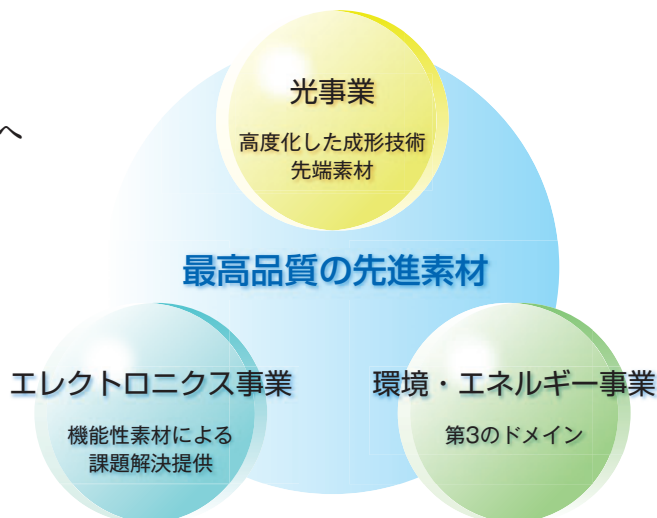


### 2011年10月期の目標値

- 売上高 ..... 300億円以上
- 経常利益 ..... 34億円以上
- ROA（総資産経常利益率） ..... 5%以上
- 総資産有利子負債率 ..... 10%以下

### ● オハラ長期ビジョン

人と社会の未来創造へ  
貢献する高い志と  
変革への実行力



お客様とともに  
技術を革新する  
「夢実現企業」

## 光事業の戦略

### 新たな成長局面を迎えるデジタルカメラ市場への対応

デジタルカメラ市場の9割を占めるコンパクトタイプは、今後需要の牽引役がBRICs等新興諸国となり、製品のコモディティ化、低価格化が進んでまいります。

そのような流れに対応するため、カメラメーカー各社も中国への製造移管を進めていることから、オハラにおいても、中国の光学ガラスメーカーと業務提携を行い、OEMでの光学ガラス製造委託を推進することで、価格対応力を強化いたします。



### 非球面レンズ用低Tgガラス等の次世代主力製品創出

## 環境・エネルギー事業の戦略

### リチウムイオン伝導性ガラスセラミックスLICGCの早期事業化

リチウムイオン伝導性ガラスセラミックスLICGCは、夢の電池といわれている全固体電池用のガラスセラミックス電解質です。2012年に電池構成体としての販売、2015年には電気自動車への搭載に向け、電極開発を行っています。

## エレクトロニクス事業の戦略

### ハードディスク用ガラス基板材 —高記憶密度・高剛性と低価格化の両立—

ハードディスクドライブは、今後SSDとの記憶密度、価格競争があり、継続した材料開発とコストダウンに取り組む必要があります。

それには、従来のオハラ単独でのコストダウン活動のみならず、サプライチェーンとなる顧客と一体となって、今まで以上のレベルでのコストダウンを図ることが必要であり、あわせて材料開発面でも協力して効率を上げてまいります。



### 極低膨張ガラスセラミックス、石英等の特殊ガラス拡販

### 太陽光発電用ガラス集光レンズの開発

太陽光発電用ガラス集光レンズは、高い発電効率を誇ることから今後の展開が期待されている集光型太陽光発電システムに用いられます。オハラは、岡本硝子株式会社と共同で、高効率で耐候性に優れた集光レンズの開発を目指してまいります。

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (2009年4月30日)	前中間期 (2008年4月30日) (ご参考)	前 期 (2008年10月31日) (ご参考)	科 目	当中間期 (2009年4月30日)	前中間期 (2008年4月30日) (ご参考)	前 期 (2008年10月31日) (ご参考)
<b>【資産の部】</b>				<b>【負債の部】</b>			
流動資産	22,269	24,506	27,851	流動負債	8,931	8,590	13,221
現金及び預金	7,105	7,465	6,274	支払手形及び買掛金	1,454	3,615	4,183
受取手形及び売掛金	4,265	8,640	11,013	短期借入金	5,958	1,269	5,310
有価証券	1,705	1,302	704	1年内償還予定の社債	112	25	125
たな卸資産	8,183	5,717	8,306	未払法人税等	41	1,116	818
繰延税金資産	569	743	799	未払金	407	1,341	1,306
その他	449	643	764	その他	957	1,222	1,477
貸倒引当金	△ 9	△ 6	△ 12	固定負債	3,462	3,642	2,958
固定資産	30,593	30,718	32,542	社債	—	112	—
有形固定資産	24,637	22,504	26,323	長期借入金	901	237	165
無形固定資産	65	60	69	繰延税金負債	654	1,897	871
投資その他の資産	5,890	8,153	6,149	退職給付引当金	1,098	1,054	1,029
資産合計	52,863	55,224	60,394	その他	808	340	891
				負債合計	12,394	12,233	16,179
				<b>【純資産の部】</b>			
				株主資本	41,019	40,205	42,380
				資本金	5,855	5,855	5,855
				資本剰余金	7,930	7,930	7,930
				利益剰余金	28,782	27,968	30,143
				自己株式	△ 1,548	△ 1,548	△ 1,548
				評価・換算差額等	△ 1,169	2,370	1,029
				その他有価証券評価差額金	1,067	2,743	1,306
				為替換算調整勘定	△ 2,237	△ 372	△ 276
				少数株主持分	619	414	804
				純資産合計	40,469	42,991	44,214
				負債純資産合計	52,863	55,224	60,394

## 中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自 2008年11月 1日 至 2009年 4月30日)	前中間期 (自 2007年11月 1日 至 2008年 4月30日) (ご参考)	前 期 (自 2007年11月 1日 至 2008年10月31日) (ご参考)
売 上 高	9,028	14,864	30,574
売 上 原 価	6,541	8,694	18,758
売 上 総 利 益	2,486	6,170	11,816
販売費及び一般管理費	2,610	2,695	5,444
営業利益（△損失）	△ 124	3,475	6,372
営業外収益	363	336	522
営業外費用	577	256	436
経常利益（△損失）	△ 337	3,555	6,458
特別利益	27	2	2
特別損失	56	4	68
税金等調整前中間（当期）純利益 （△純損失）	△ 366	3,553	6,391
法人税等	478	1,660	2,460
少数株主利益（△損失）	△ 103	0	15
中間（当期）純利益（△純損失）	△ 740	1,892	3,915

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当中間期 (自 2008年11月 1日 至 2009年 4月30日)	前中間期 (自 2007年11月 1日 至 2008年 4月30日) (ご参考)	前 期 (自 2007年11月 1日 至 2008年10月31日) (ご参考)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,103	3,519	4,652
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 743	△ 2,087	△ 4,272
財務活動によるキャッシュ・フロー	757	△ 3,020	△ 3,243
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 599	△ 150	△ 88
現金及び現金同等物の増減額	2,519	△ 1,739	△ 2,952
現金及び現金同等物の期首残高	6,208	9,160	9,160
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	8,727	7,421	6,208

### POINT

#### 売上高

- ▶ かつてない大幅な需要減
- ▶ 稼働率低下による対売上の固定費負担増
- ▶ 新規連結会社分の売上増

#### 売上総利益

- ▶ 新規連結会社分の売上原価増
- ▶ 緊急不況対策

#### 営業利益

- ▶ 販管費率増 当中間期28.9%  
(前年同期比+10.8ポイント)

#### 経常利益

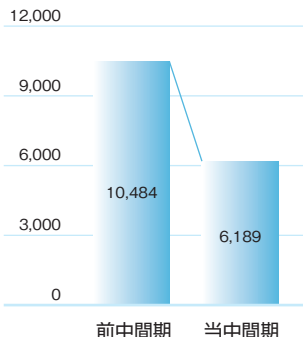
- ▶ 為替差損
- ▶ 受取利息の減少

# セグメント別の概況

## 光事業

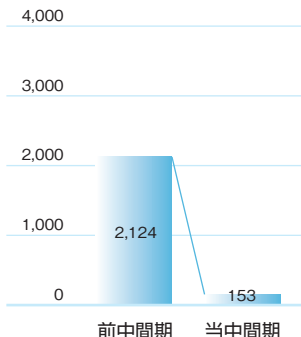
### 売上高

(単位：百万円)



### 営業利益

(単位：百万円)



※当期よりセグメント区分の見直しを行っており、これに伴い前中間期実績は、現在の新セグメント区分で遡及し再試算しています。

デジタルカメラや交換レンズの世界的な需要減少に伴う光学機器メーカーの生産・在庫調整により、レンズブランクスの需要も減少し、当社光学ガラス素材の売り上げも悪化しました。

- 主要製品
  - ・ デジタルカメラ、プロジェクタ等の光学機器向け光学ガラス素材



光学ガラス素材

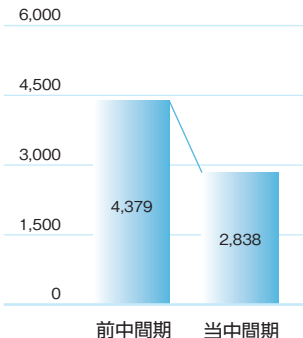


新製品 L-LAH87

## エレクトロニクス事業

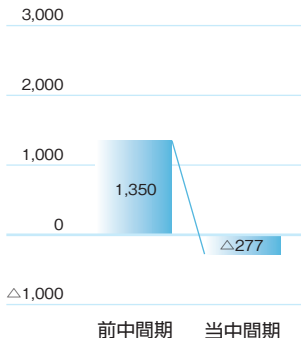
### 売上高

(単位：百万円)



### 営業利益

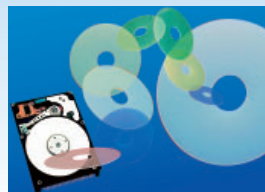
(単位：百万円)



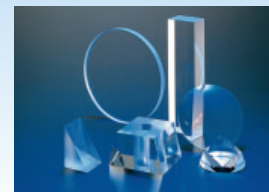
※当期よりセグメント区分の見直しを行っており、これに伴い前中間期実績は、現在の新セグメント区分で遡及し再試算しています。

主力製品であるハードディスク用ガラス基板材は、メーカーの生産・在庫調整などにより、需要が大幅に減少しました。また、前期に連結子会社化した(株)オハラ・クォーツが扱う石英製品も、半導体関連市場の悪化により苦戦を強いられました。

- 主要製品
  - ・ ハードディスク用ガラス基板材
  - ・ 半導体関連機器向け石英



ハードディスク用ガラス基板材



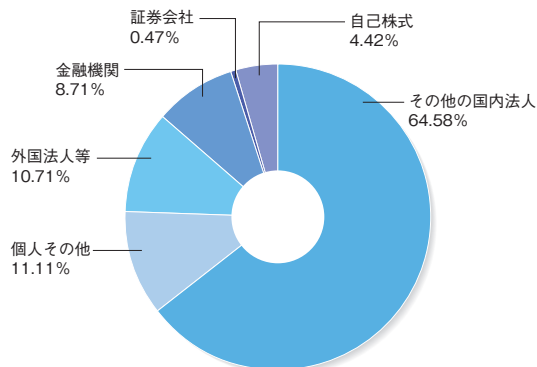
石英ガラス

■ 発行可能株式総数	76,000,000株
■ 発行済株式の総数	25,450,000株
■ 株主数	4,901名
■ 大株主	

株主名	持株数	出資比率	
		株	%
セイコーホールディングス株式会社	8,252,722		33.9
キヤノン株式会社	4,694,380		19.3
京橋起業株式会社	1,748,400		7.2
三光起業株式会社	1,638,300		6.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	520,700		2.1
株式会社みずほ銀行	500,000		2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	484,700		2.0
ビーピーエイチ オツベンハイマー クエスト インターナショナル パリユー ファンド インク	370,500		1.5
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	351,900		1.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	328,000		1.4

(注) 出資比率は自己株式(1,124,118株)を控除して計算しております。

### ■ 所有者別株式数分布状況



### ●取締役・監査役

代表取締役会長	油谷純正	(経営全般)
代表取締役社長	齋藤弘和	(経営全般、営業担当)
専務取締役	関戸仁	(生産、技術担当)
常務取締役	若杉覚	(業務監査、総務担当 兼 総務部長)
常務取締役	中島隆	(経営企画、経理担当 兼 経理部長)
取締役	広瀬孝二	(研究開発部長)
取締役	青木哲也	(人事部長)
取締役	山村勝美	
取締役	中村敏宏	
取締役	眞榮田雅也	
常勤監査役	馬渡正秀	
監査役	高木晴彦	
監査役	大澤正宏	

### 会社概要

2009年4月30日現在

商号	株式会社オハラ
所在地	〒229-1186 神奈川県相模原市小山1-15-30 TEL 042-772-2101 (代表) FAX 042-774-1071 ウェブサイト <a href="http://www.ohara-inc.co.jp/">http://www.ohara-inc.co.jp/</a>
創立	1935年10月1日
資本金	58億5千5百万円
事業内容	光学及びエレクトロニクス関連向けガラス素材の製造・販売
従業員数	428名(グループ全体 2,404名)
グループ会社	台湾小原光学股份有限公司 OHARA OPTICAL (M) SDN.BHD. 小原光学(中山)有限公司 OHARA DISK (M) SDN.BHD. 株式会社オーピーシー 株式会社オハラ・クオーツ Ohara Corporation OHARA GmbH 小原光学(香港)有限公司 足柄光学株式会社

## 株 主 メ モ

事業年度	毎年11月1日～翌年10月31日
剰余金の配当基準日	10月31日 (中間配当を行う場合は4月30日)
定時株主総会	毎年1月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 (http://www.ohara-inc.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 株券電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

株主様向け  
アンケート

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード **5218**

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com